

中等社会科教育学会 第31回全国研究大会 総会議事次第

1. 開会
2. 会長挨拶 田林 明 (筑波大学)
3. 議事
 - (1) 平成23年度 学会活動報告
 - (2) 平成23年度 決算報告
 - (3) 平成23年度 監査報告
 - (4) 平成24年度 学会活動計画
 - (5) 研究部会設立について
 - (5) 平成24年度 予算案
4. その他
5. 閉会

2011 (平成23) 年度 学会活動報告

2011年7月24日(日)2名の報告者を迎えて、第6回例会を筑波大学文科系修士棟で開催した。

- (1) 伊東 敦子 (早稲田大学系属早稲田実業学校中・高等部)
中等教育におけるフィールドワーク実践の現状と課題
- (2) 須賀 忠芳 (東洋大学)
「観光歴史教育論」の課題とその展望

2011年8月9日(火)「会報」79号を発行した。

2011年11月6日(日)中等社会科教育学会第30回全国研究大会を筑波大学文科系修士棟で開催した。

2012年3月31日(土)『中等社会科教育研究』第30号を発行した。

2012 (平成24) 年度 学会活動計画

2012年6月19日(火)ホームページを開設する。

2012年6月30日(土)2名の報告者を迎えて、第7回例会を東洋大学白山第2キャンパスで開催する。

- (1) 栗原 久 (東洋大学)
経済教育の現状と課題—経済リテラシーと公民的資質—
- (2) 高畑 緑 (東京都立町田の丘学園)
特別支援教育との出会い

2012年8月20日(月)「会報」第80号を発行する。

2012年11月3日(土)中等社会科教育学会第31回研究大会を筑波大学文科系修士棟で開催する。

2013年3月31日(日)『中等社会科教育研究』第31号を発行する。

事務局便り

1. 学会費納入のお願い

遅くなりましたが、2012年度の学会費振込用紙を同封いたしましたので会員の皆様の納入をお願いいたします。学会費は当学会の唯一の財源です。どうぞよろしくお願ひします。会費未納の場合には、学会誌の送付を一時停止しますことを予めご了承ください。

振込番号や名義、会費は以下のとおりです。

振替番号：00350-4-7442 名義：中等社会科教育学会 会費 3,000 円

2. ホームページ開設のお知らせ

中等社会科教育学会のホームページ (<http://www.chuusha.jp/>) を開設いたしました。学会に関する情報を、随時、更新しておりますので、御覧ください。

3. 中等社会科教育学会・授業実践研究部会発足のお知らせ

第31回全国研究大会総会（2012年11月3日）において、出席者の賛同を得て、授業実践研究部会が発足することになりました。当部会の活動目的、組織等は以下の通りです。

○ 目的

- (1) 当会は、中等社会科教育学会の下部組織として機能し、学会活動の発展に寄与することを目的とする。
- (2) 当会は、社会科教育の研究者・学生と学校現場における授業実践者との相互の交流、情報交換を通して、社会科教育における研究と実践を深化させることを目的とする。

○ 内容

- (1) 当会の参加者は、原則として、中等社会科教育学会員とする。
- (2) 代表者、及び運営委員を置き、当会の運営にあたることとする。
- (3) 社会科授業実践をめぐる研究発表及び討議を行い、学校現場に即して、授業実践に関する研究を深める。
- (4) 年4回程度の定期会合を設定し、参加者相互の連携を深めるとともに、情報交換の場としても機能させる。
- (5) 部会開催の告知は、学会ホームページ等、電子媒体上において行うこととする。
- (6) 当会の経費は、中等社会科教育学会総会の承認の下、学会予算から必要に応じて計上することができる。

○ 組織

- ・代表者 三橋 浩志(文部科学省)
- ・運営委員 野口 剛(筑波大学附属高等学校) 栗原 久(東洋大学) 須賀 忠芳(東洋大学)

- ・事務局 〒112-8600 東京都文京区白山5-28-20
東洋大学国際地域学部 第36研究室
須賀忠芳（メールアドレス t_suga@toyo.jp）

また、当部会では、今年度、以下のような会合を開催いたしました。

- ・設立準備会

期日 平成24年10月13日（土） 東洋大学白山第2キャンパス

内容 ①研究実践発表 三橋浩志氏（文部科学省）「現代社会」における公共事業教材化の視点
－開発プロジェクトのプロセスを踏まえた学習指導私案－

- ・第1回会合

期日 平成24年12月22日（土） 東洋大学白山第2キャンパス

内容 ①研究実践発表 野口剛氏（筑波大学附属高等学校）「歴史の授業実践上の課題」
②情報交換 授業実践上の検討課題に関する情報交換

当部会の開催告知については、主に、学会ホームページ上の掲示板で行います。会員の皆様には、当部会の趣旨を御理解いただき、当会企画の会合等に、積極的に御参加下さい。

4. 住所変更のお願い

住所変更などがありましたら、お早目に事務局へお知らせください。

5. 新入会員の募集

中等社会科教育学会では、研究活動の推進と発展を図るために、新入会員を募集しております。次頁の入会申込用紙を複写して必要事項をご記入の上、事務局宛てにご送付ください。受領後、こちらからご連絡します。

【中等社会科教育学会事務局】

〒305-8577

茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学人間系社会科教育学研究室

中等社会科教育学会事務局 宛

Mail : chuushagaku@yahoo.co.jp

年 月 日申込 年 月 日受付

中等社会科教育学会入会申込書	
フリガナ	
氏名	
生年月日	
勤務先住所 勤務先 (職名)	〒 () Tel () E-mail
現住所 連絡先	〒 Tel () E-mail
学会誌などの送付先	〒 Tel () E-mail
最終学歴	
研究または関心を持っている課題	
*承認	年 月 日承認
【 備考 】	

*印の欄は記入しないで下さい。

2012—2013年度 中等社会科教育学会役員

任期：2012（平成24）年4月1日～2014（平成26）年3月31日

会 長 田林 明

副会長 江口 勇治 谷田部玲生

事務局 唐木 清志 國分 麻里

学会誌編集委員（◎は委員長，○は事務局長）

◎井田 仁康 大野 新 鎌田 和宏 川崎 誠司 栗原 久 ○須賀 忠芳
田尻 信壹 寺本 誠 丹治 達義 野口 剛 藤本 和哉 谷田部玲生
山口 泰宏

評議員

渥美 利文 飯島 睦子 石本由布子 磯山 恭子 井門 正美
茨木 智志 大野 新 小野 智一 加藤 公明 草間真智子
熊田 偵介 栗原 久 今野日出晴 佐藤 秀樹 須賀 忠芳
杉浦 正和 田尻 信壹 高橋 健司 外池 智 中切 正人
松岡 尚敏 松崎 康弘 宮蘭 衛 森岡 孝文 山根 栄次
李 明熙 若生 剛

理 事

井田 仁康 伊藤 純郎 江口 勇治 鎌田 和宏 唐木 清志
川崎 誠司 木村 勝彦 桐谷 正信 齋藤 慶子 佐藤 公
杉田 孝之 多田 知子 丹治 達義 寺本 誠 年友 彩
野口 剛 華井 裕隆 藤本 和哉 真柴 晶彦 三橋 浩志
谷田部玲生 山口 泰宏 山田 美保 山本 栄一

学生幹事

若干名（筑波大学大学院教育研究科院生・人間総合科学研究科院生）

顧 問

横山十四男 篠原 昭雄 谷川 彰英

【編集規定】

- (1) 本誌は中等社会科教育学会の機関誌である。
- (2) 本誌は年1回発行するものとする。
- (3) 本誌は本学会の会員の研究およびそれに資する情報の発表の場である。
- (4) 本誌の編集は本学会の編集委員会が担当する。
- (5) 本誌に掲載する原稿は、すべて編集委員会を経由しなければならない。
- (6) 本誌に掲載する原稿の採否は、レフリーの審査を経た後に委員会が決定する。
- (7) 本誌に掲載する原稿について、編集委員会は執筆者に内容の変更を要求できる。
- (8) 本誌に掲載することが編集委員会において決定した原稿・電子媒体（CD等）は返却しない。
- (9) 本誌に掲載する原稿の執筆者による校正は第1校までとする。その後の校正は編集委員会が行う。
- (10) 本誌に掲載された論文・記事等の抜刷は執筆者の希望によって作製するが、その作製費・輸送費はすべて執筆者が負担するものとする。
- (11) 本誌に掲載する原稿の図版等で、特別の経費を必要とするものについては、執筆者が負担するものとする。

【執筆要領】

- (1) この機関誌への投稿は、本学会の会員に限られる。非会員と連名での投稿の際は、非会員の場合は入会手続きを取らなければならない。ただし、編集委員会からの依頼原稿の場合は、この限りではない。
- (2) この機関誌への投稿原稿は、未発表のものに限られる。ただし、口頭で発表したものや私的に配布した印刷物の場合は、この限りではない。
- (3) 投稿は以下のものである。

研究論文	社会科教育の歴史・理論および海外の事例などについての研究 1,200字×17枚程度
実践論文	学校教育・社会教育などでの自らの社会科教育の実践をふまえた授業研究 1,200字×14枚程度
研究ノート	社会科教育の歴史・理論・事例研究や提言 1,200字×10枚程度
授業レポート	社会科の授業や展示の実践紹介 1,200字×3枚程度
社会科教育情報	社会科教育に関連した有益な情報の提供 1,200字×2枚程度
書評	社会科教育に関連した書籍の批評 1,200字×2枚程度
図書紹介	社会科教育に関連した書籍の紹介 400字程度

- (4) 投稿原稿の本文は必ず一太郎かWordを使って作成する。その際にA4判で横書き、40字×30行でページ設定する。手書き原稿は受理しない。
- (5) 投稿原稿は完全成稿とし、打ち出し原稿には図表も貼付する。また、必ず英文タイトルも付ける。
- (6) 投稿の際は、打ち出し原稿3部を編集委員会宛に送付する。掲載が決定した場合は、電子媒体（CD等）でデータを提出する。
- (7) 投稿の際には、必ず執筆者の名前・よみがな・所属（職名その他をふくむ）・連絡先（郵便番号・住所・電話番号・電子アドレス）を明記する。
- (8) 投稿のあて先は以下の通りである。

〒112-8600 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学国際地域学部 第36研究室
須賀 忠芳 t_suga@toyo.jp

- (9) 投稿を希望する者は、8月末日までに上記あて先まで事前に連絡をする。
- (10) 投稿の提出締め切りは、10月15日とする。

編集後記

東日本大震災から本年3月11日で2年になる。先日、福島県の被災地を視察した。昼間は家に戻っても夜間の居住が禁止されている集落や、まだほとんど手がつけられていない地域もある。津波で流された車が何台も横転したまま、もとの水田に放置され、流された家屋でさえ手がつけられていない。福島原発に近く、放射線が強く、ボランティアの受け入れもできない地域である。2年間の時が止まった光景が広がっていた。本号の特集は、2011年の第30回大会のシンポジウムでの報告である。2011年に報告された内容が、1年以上経過した今でも、そのままのところも少なくない。東日本大震災は、そこから得られる教訓だけでなく、その事実の時が止まったまま、まだその地域に傷跡を残していることに特徴がある。その意味でも、今回の特集の意義は大きい。

本号は、パネラーの報告4本と東日本大震災にかかわる実践論文・報告3本が特集とされ、さらに、5本の研究論文と1本の研究ノート、書評が加わり、大変充実した内容となった。投稿して頂いた会員には厚く御礼申し上げます。また、本誌は査読制をとっている。貴重な査読意見をいただいた方にも厚く御礼申し上げます。

前号に続き、本号でも、大学院生の投稿が多かった。本誌が若手研究者の研究を公表する場となっていることの証であるが、本学会の特徴は現職の小・中・高校の教員が多く会員となっていることにある。理論的研究だけでなく、実践的な論文も是非投稿していただきたい。多くの社会科教育者の研究の交流場とするためにも、学校現場が多忙であることは存じあげているが、実践論文の投稿もよろしく願いたい。

最後になるが、本学会の前身、筑波大学社会科教育学会の立ち上げに奮闘していただいた、つまりは、筑波大学教育研究科社会科コースの創始者ともいえる梶哲夫先生が亡くなった。梶先生のご追悼文は、1期生の谷田部玲生先生にご寄稿いただいた。若い会員の方にも、梶先生の偉業を知り、精神を継承していただければと思っている。なお、本号の編集事務は、東洋大学の須賀忠芳先生に担当していただいた。編集事務は、気苦労の多い仕事で、大きな負担を強いている。このように充実した内容になったのは、彼の奮闘によるところが大きい。感謝します。

本誌の制作にあたっては、編集委員一同細心の注意をはらっているが、いたらないことも多々あると思われる。多忙な本務の中で、この仕事をやっていることに免じて大目にみていただければ幸いである。今後とも、会員の皆様のご協力とご理解の程、よろしく願います。

(井田仁康)

編集委員会

委員長	井田 仁康	(筑波大学)
委員	大野 新	(筑波大学附属駒場中・高等学校)
	鎌田 和宏	(帝京大学)
	川崎 誠司	(東京学芸大学)
	栗原 久	(東洋大学)
	須賀 忠芳	(東洋大学)
	田尻 信壹	(共立女子大学)
	寺本 誠	(お茶の水女子大学附属中学校)
	丹治 達義	(筑波大学附属視覚特別支援学校)
	野口 剛	(筑波大学附属高等学校)
	藤本 和哉	(筑波大学附属高等学校)
	谷田部玲生	(桐蔭横浜大学)
	山口 泰宏	(筑波大学附属中学校)